

# ICO 管理会計の特訓コース第1回

合格水準72点

材料費・労務費・部門別計算  
総合問題 1

2009年合格目標

## ICO 解答

### 第1問

問1 (配点 4点/☆×5個=20点)

ア	0.03	イ	0.013
ウ	0.1	エ	3
オ	2,240		

問2 (配点 4点/☆×5個=20点)

カ	44,058	キ	12,725
ク	3,121	ケ	2,077,577
コ	23,074		

### 第2問

(配点 4点/☆×4個=16点)

ア	2,445,000	イ	219,000
ウ	909,000	エ	-29,610

### 第3問

問1 (配点 3点/★×4個=12点)

月次予算部門費配賦表

(単位: 万円)

費目	合計	製造部門				補助部門					
		機械加工部門		組立部門		動力部門		保全部門		総務部門	
		変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
部門個別費	7,456	1,443	3,000	963	1,600	100	120	80	100	—	50
部門共通費	1,000	—	360	—	346	—	123	—	98	—	73
第1次配賦						100	243	80	198	—	123
動力部門費	343	50	122	40	97	—	—	10	24	—	—
保全部門費	278	32	66	26	99	16	25	—	—	6	8
総務部門費	123	—	46	—	39	—	21	—	17	—	—
第2次配賦						16	46	10	41	6	8
動力部門費	62	9	26	7	20						
保全部門費	51	6	16	4	25						
総務部門費	14	3	4	3	4						
製造部門費予算	8,456	★1,543	★3,640	★1,043	★2,230						

**問2** (配点 前半・後半各4点/☆×2個=8点)

動力部門の原価業績を部門管理者の評価に用いるためには、管理不能な操業度差異を動力部門に残さない必要がある。

よって、変動費は実際動力消費量で配賦するが、固定費は予算編成時に用いた動力消費能力に応じて、他部門へ配賦する複数基準配賦法が実際配賦で必要となると考えるべきである。

**問3** (配点 3点/★×4個=12点)

月次実際部門費配賦表

(単位：万円)

費目	合計	製造部門				補助部門					
		機械加工部門		組立部門		動力部門		保全部門		総務部門	
		変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費	変動費	固定費
実際部門費	8,149	1,298	3,360	830	1,946	92	240	66	194	—	123
第1次配賦											
動力部門費	332	46	120	36	96	—	—	10	24	—	—
保全部門費	260	27	59	21	97	13	25	—	—	5	13
総務部門費	123	—	46	—	39	—	21	—	17	—	—
第2次配賦						13	46	10	41	5	13
動力部門費	59	7	26	6	20						
保全部門費	51	6	16	4	25						
総務部門費	18	3	7	2	6						
製造部門費合計	8,149	★1,387	★3,634	★899	★2,229						

**問4** (配点 4点/☆×3個=12点)

変動費予算差異	-44,720 円
固定費予算差異	60,000 円
操業度差異	-3,785,600 円

採点基準	$3 \text{点} / \star \times 8 \text{個} = 24 \text{点}$ $4 \text{点} / \star \times 19 \text{個} = 76 \text{点}$	} 合計100点
------	---	----------

## I C O 解説

## 第1問 (単位: 円)

## 問1

$$\text{ア. } 658,080 (=285,168+143,000+68,632+161,280) \div 21,936,000 = \boxed{0.03}$$

$$\text{イ. } 285,168 \div 21,936,000 = \boxed{0.013}$$

$$\text{ウ. } 143,000 \div 1,430,000 \text{ g} = \boxed{0.1}$$

$$\text{エ. } 68,632 \div 22,877 \text{ 個} \div \boxed{3}$$

$$\text{オ. } 161,280 \div 72 \text{ 回} = \boxed{2,240}$$

## 問2

カ. A材料への予定配賦額

買入手数料: (@1,000×500個+@1,020×630個+@1,030×550個)×0.013	≒ 22,218
引取運賃: (500個+630個+550個)×60g×0.1	= 10,080
検収費: (500個+630個+550個)×3	= 5,040
購入事務費: 3回×2,240	= 6,720
	44,058

キ. B材料への予定配賦額

買入手数料: (@700×200個+@750×300個)×0.013	= 4,745
引取運賃: (200個+300個)×40g×0.1	= 2,000
検収費: (200個+300個)×3	= 1,500
購入事務費: 2回×2,240	= 4,480
	12,725

ク. C材料への予定配賦額

買入手数料: 21,600円×0.013	≒ 281
引取運賃: 6,000g×0.1	= 600
検収費:	0
購入事務費: 1回×2,240	= 2,240
	3,121

## ケ. 直接材料費の計算

## A材料…先入先出法

当期購入分の材料副費が含まれていない直接材料費の計算：

第1回出庫	月初在庫分	@1,035×200個	=	207,000
	第1回購入分	@1,000×400個	=	400,000
第2回出庫	第1回購入分	@1,000×100個	=	100,000
	第2回購入分	@1,020×400個	=	408,000
第3回出庫	第2回購入分	@1,020×230個	=	234,600
	第3回購入分	@1,030×290個	=	298,700
	小計			<u>1,648,300</u>

当期購入分が直接材料費になった金額に対応する材料副費配賦額：

買入手数料：	$(400,000 + 100,000 + 408,000 + 234,600 + 298,700) \times 0.013$	≒	18,737
引取運賃：	$(600個 - 200個 + 500個 + 520個) \times 60g \times 0.1$	=	8,520
検収費：	$(600個 - 200個 + 500個 + 520個) \times 3$	=	4,260
購入事務費：	$2回 \times 2,240 + 290個 \div 550個 \times 2,240$	=	5,661

A材料の直接材料費合計 1,685,478

## B材料…その都度後入先出法

当期購入分の材料副費が含まれていない直接材料費の計算：

第1回出庫	第1回購入分	@700×200個	=	140,000
	月初在庫分	@752×50個	=	37,600
第2回出庫	第2回購入分	@750×270個	=	202,500
	小計			<u>380,100</u>

当期購入分が直接材料費になった金額に対応する材料副費配賦額：

買入手数料：	$(140,000 + 202,500) \times 0.013$	≒	4,453
引取運賃：	$(200個 + 270個) \times 40g \times 0.1$	=	1,880
検収費：	$(200個 + 270個) \times 3$	=	1,410
購入事務費：	$1回 \times 2,240 + 270個 \div 300個 \times 2,240$	=	4,256

B材料の直接材料費合計 392,099直接材料費合計：1,685,478 + 392,099 = 2,077,577

## コ. 間接材料費の計算

## C材料…先入先出法

当月購入分の材料副費が含まれていない間接材料費の計算：

月末棚卸高：	$21,600 \div 6,000g \times 2,220g = 7,992$		
	$7,500 + 21,600 - 7,992$	=	21,108

当月購入分が間接材料費になった金額に対応する材料副費配賦額：

買入手数料：	$(21,600 - 7,992) \times 0.013$	≒	177
引取運賃：	$(6,000g - 2,220g) \times 0.1$	=	378
検収費：			0
購入事務費：	$(6,000g - 2,220g) \div 6,000g \times 2,240$	≒	1,411

小計 1,966間接材料費合計 23,074

**第2問** (単位：円)

予定平均賃率：31,650,000÷21,100時間=1,500/時

ア. 1,630時間×1,500円/時= 2,445,000

イ. (110時間+20時間)×1,500円/時+40時間×1,500円/時×40%= 219,000

ウ. (550時間+40時間)×1,500円/時+40時間×1,500円/時×40%= 909,000

当月総支給額：1,600円/時×(172時間+178時間+175時間)+1,460円/時×(176時間+179時間+175時間)+1,390円/時×(178時間+172時間+176時間+174時間)+8,454+9,056+9,000+9,500+10,000+9,000+8,000+6,800+7,500+7,000=2,671,110

個別賃率に基づく実際労務費：2,671,110-886,500+909,000=2,693,610

エ. 賃率差異：2,664,000(=2,445,000+219,000)-2,693,610= -29,610 (不利差異)

賃金・手当 (円)	
実際支払額 2,671,110	前月未払 886,500
	直接労務費 2,445,000
	間接労務費 219,000
当月未払 909,000	賃率差異 29,610
<u>3,580,110</u>	<u>3,580,110</u>

**第3問** (単位：万円)

**問1** 部門共通費の配賦

間接労務費 (従業員数)：640÷320人 = 2

工場減価償却費と工場火災保険料 (床面積) (250+110)÷1,080㎡=36÷108

機械加工部門：2×108人+36÷108×432㎡=360

組立部門：2×92人+36÷108×486㎡=346

動力部門：2×48人+36÷108×81㎡=123

保全部門：2×40人+36÷108×54㎡=98

総務部門：2×32人+36÷108×27㎡=73

補助部門費の第1次配賦

動力部門費の変動費 (動力消費能力)：100÷10,000kwh=0.01

機械加工部門：0.01×5,000kwh=50

組立部門：0.01×4,000kwh=40

保全部門：0.01×1,000kwh=10

動力部門費の固定費 (動力消費能力)：243÷10,000kwh=0.0243

機械加工部門：0.0243×5,000kwh=122

組立部門：0.0243×4,000kwh=97

保全部門：0.0243×1,000kwh=24

保全部門費の変動費（保全時間）： $80 \div 400 \text{時間} = 0.2$

機械加工部門： $0.2 \times 160 \text{時間} = 32$

組立部門： $0.2 \times 130 \text{時間} = 26$

動力部門： $0.2 \times 80 \text{時間} = 16$

総務部門： $0.2 \times 30 \text{時間} = 6$

保全部門費の固定費（保全回数）： $198 \div 240 \text{回} = 0.825$

機械加工部門： $0.825 \times 80 \text{回} = 66$

組立部門： $0.825 \times 120 \text{回} = 99$

動力部門： $0.825 \times 30 \text{回} = 25$

総務部門： $0.825 \times 10 \text{回} = 8$

総務部門費の固定費（従業員数）： $123 \div (320 \text{人} - 32 \text{人}) = 123 \div 288$

機械加工部門： $123 \div 288 \times 108 \text{人} = 46$

組立部門： $123 \div 288 \times 92 \text{人} = 39$

動力部門： $123 \div 288 \times 48 \text{人} = 21$

保全部門： $123 \div 288 \times 40 \text{人} = 17$

補助部門費の第2次配賦

動力部門費の変動費（動力消費能力）： $16 \div (5,000 \text{kwh} + 4,000 \text{kwh}) = 16 \div 9,000$

機械加工部門： $16 \div 9,000 \times 5,000 \text{kwh} = 9$

組立部門： $16 \div 9,000 \times 4,000 \text{kwh} = 7$

動力部門費の固定費（動力消費能力）： $46 \div (5,000 \text{kwh} + 4,000 \text{kwh}) = 46 \div 9,000$

機械加工部門： $46 \div 9,000 \times 5,000 \text{kwh} = 26$

組立部門： $46 \div 9,000 \times 4,000 \text{kwh} = 20$

保全部門費の変動費（保全時間）： $10 \div (160 \text{時間} + 130 \text{時間}) = 1 \div 29$

機械加工部門： $1 \div 29 \times 160 \text{時間} = 6$

組立部門： $1 \div 29 \times 130 \text{時間} = 4$

保全部門費の固定費（保全回数）： $41 \div (80 \text{回} + 120 \text{回}) = 0.205$

機械加工部門： $0.205 \times 80 \text{回} = 16$

組立部門： $0.205 \times 120 \text{回} = 25$

総務部門費の変動費（従業員数）： $6 \div (108 \text{人} + 92 \text{人}) = 0.03$

機械加工部門： $0.03 \times 108 \text{人} = 3$

組立部門： $0.03 \times 90 \text{人} = 3$

総務部門費の固定費（従業員数）： $8 \div (108 \text{人} + 92 \text{人}) = 0.04$

機械加工部門： $0.04 \times 108 \text{人} = 4$

組立部門： $0.04 \times 90 \text{人} = 4$

機械加工部門費予算（単位：百万円）

変動費： $1,443 + 50 + 32 + 9 + 6 + 3 = \boxed{1,543}$

固定費： $3,000 + 360 + 122 + 66 + 46 + 26 + 16 + 4 = \boxed{3,640}$

組立部門費予算（単位：百万円）

変動費： $963 + 40 + 26 + 7 + 4 + 3 = \boxed{1,043}$

固定費： $1,600 + 346 + 97 + 99 + 39 + 20 + 25 + 4 = \boxed{2,230}$

**問2** 解答を参照。

**問3**

補助部門費の第1次配賦

動力部門費の変動費（実際動力消費量）： $92 \div 9,000$ 機械加工部門： $92 \div 9,000 \times 4,510 \text{kwh} \approx 46$ 組立部門： $92 \div 9,000 \times 3,560 \text{kwh} \approx 36$ 保全部門： $92 \div 9,000 \times 930 \text{kwh} \approx 10$ 動力部門費の固定費（動力消費能力）： $240 \div 10,000 \text{kwh} = 0.024$ 機械加工部門： $0.024 \times 5,000 \text{kwh} = 120$ 組立部門： $0.024 \times 4,000 \text{kwh} = 96$ 保全部門： $0.024 \times 1,000 \text{kwh} = 24$ 保全部門費の変動費（実際保全時間）： $66 \div 360$ 機械加工部門： $66 \div 360 \times 145 \text{時間} \approx 27$ 組立部門： $66 \div 360 \times 115 \text{時間} \approx 21$ 動力部門： $66 \div 360 \times 72 \text{時間} \approx 13$ 総務部門： $66 \div 360 \times 28 \text{時間} \approx 5$ 保全部門費の固定費（実際保全回数）： $194 \div 230$ 機械加工部門： $194 \div 230 \times 70 \text{回} \approx 59$ 組立部門： $194 \div 230 \times 115 \text{回} = 97$ 動力部門： $194 \div 230 \times 30 \text{回} \approx 25$ 総務部門： $194 \div 230 \times 15 \text{回} \approx 13$ 総務部門費の固定費（従業員数）：計算結果は **問1** と同じ。

補助部門費の第2次配賦

動力部門費の変動費（実際動力消費量）： $13 \div (4,510 \text{kwh} + 3,560 \text{kwh}) = 13 \div 8,070$ 機械加工部門： $13 \div 8,070 \times 4,510 \text{kwh} \approx 7$ 組立部門： $13 \div 8,070 \times 3,560 \text{kwh} \approx 6$ 動力部門費の固定費（動力消費能力）： $46 \div (5,000 \text{kwh} + 4,000 \text{kwh}) = 46 \div 9,000$ 機械加工部門： $46 \div 9,000 \times 5,000 \text{kwh} \approx 26$ 組立部門： $46 \div 9,000 \times 4,000 \text{kwh} \approx 20$ 保全部門費の変動費（実際保全時間）： $10 \div (145 \text{時間} + 115 \text{時間}) = 1 \div 26$ 機械加工部門： $1 \div 26 \times 145 \text{時間} \approx 6$ 組立部門： $1 \div 26 \times 115 \text{時間} \approx 4$ 保全部門費の固定費（実際保全回数）： $41 \div (70 \text{回} + 115 \text{回}) = 41 \div 185$ 機械加工部門： $41 \div 185 \times 70 \text{回} \approx 16$ 組立部門： $41 \div 185 \times 115 \text{回} \approx 25$ 総務部門費の変動費（従業員数）： $5 \div (108 \text{人} + 92 \text{人}) = 0.025$ 機械加工部門： $0.025 \times 108 \text{人} \approx 3$ 組立部門： $0.025 \times 92 \text{人} \approx 2$ 総務部門費の固定費（従業員数）： $13 \div (108 \text{人} + 92 \text{人}) = 0.065$ 機械加工部門： $0.065 \times 108 \text{人} \approx 7$ 組立部門： $0.065 \times 92 \text{人} \approx 6$ 

実際機械加工部門費：

変動費： $1,298 + 46 + 27 + 7 + 6 + 3 = \mathbf{1,387}$

固定費：3,360+120+59+46+26+16+7= 3,634

実際組立部門費：

変動費：830+36+21+6+4+2= 899

固定費：1,946+96+97+39+20+25+6= 2,229

**問4** (単位：円)

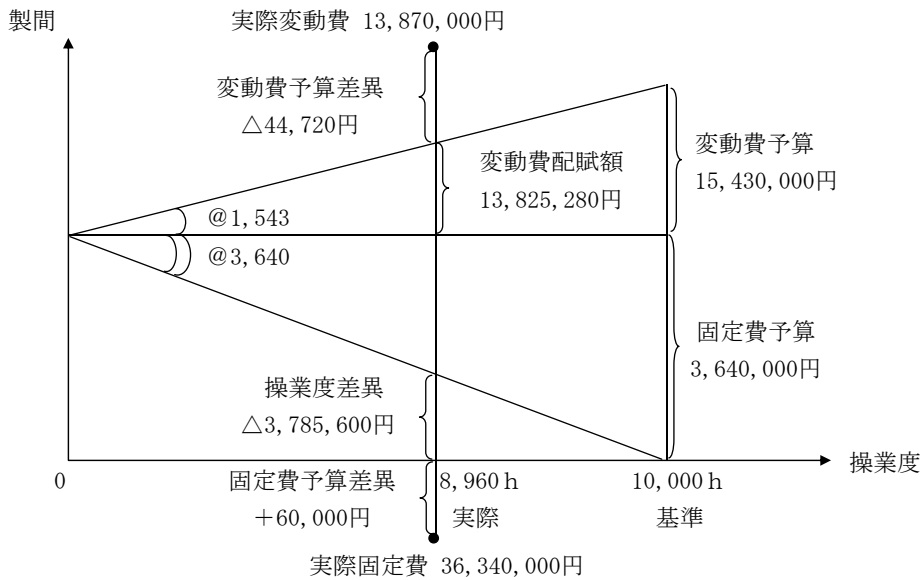
変動費率：15,430,000÷10,000時間=1,543円/時間

変動費予算差異：1,543円/時間×8,960時間-13,870,000= -44,720 (不利差異)

固定費予算差異：36,400,000-36,340,000= 60,000 (有利差異)

固定費率：36,400,000÷10,000時間=3,640円/時間

操業度差異：3,640円/時間×(8,960時間-10,000時間)= -3,785,600 (不利差異)



CHECK 欄：	TIME LIMIT	実施日
	60分	
	RANK	得点
	B：普通	
	合格水準	
72点		